

FMU 男女共同参画通信

第 30 号 September 2021

福島県立医科大学男女共同参画支援室

本年 7 月から 8 月にかけて実施した「男女共同参画に関するアンケート」に対して、各職場から多数のご回答をいただきありがとうございました。今後集計を行い、結果については HP にてご報告いたします。さて、10 月は「男女共同参画推進月間」ですが、これに先立ち、今月 29 日(水)に「男女共同参画推進員研修会」を開催いたします。推進員(各所属長)をはじめ、教職員・学生の方もご参加いただき、職場内での男女共同参画の意識向上に努めてください。

10 月は男女共同参画月間、各所属でミーティングを

本学では、10 月を「男女共同参画推進月間」として、男女共同参画の意識の浸透を図る取り組みを集中的に行い、男女共同参画の推進に努めることとしています。今年は、まず今月 29 日に男女共同参画推進員研修会を開催し、推進員(各所属長)を中心に、ワーク・ライフ・バランスのあり方について学んでいただきます。

また、職場内での推進員(所属長)による職場研修会を開催し、今年度改訂された男女共同参画マニュアルの読み合わせなどを通じて男女共同参画についての意識の浸透を図っていただきます。ここで、男女共同参画推進員の役割について改めて確認いたしますと、次のとおりです。

- ① 各所属における男女共同参画推進行動計画の実行責任者。
- ② 各所属における男女共同参画の推進役として、チェックシートを活用しながら所属職員の意識改革のための職場研修や子育て中の職員への各種制度周知等をはじめ、研修や仕事における男女の機会均等等を図るとともに、ハラスメント対策や職場環境改善等を図り、働きやすい職場づくりに努める。
- ③ 各所属の課題・問題点等を所属職員へ提起し共有するとともに、解決を図りながら更なる男女共同参画の推進に努める。
- ④ 各所属の男女共同参画の現状について男女共同参画推進本部長へ報告を行う。
- ⑤ 各所属においてハラスメントに関する意識啓発を行う。

また、外部講師 2 名による男女共同参画講演会を 12 月に開催予定しておりますので、是非ご参加ください。

令和 3 年度 男女共同参画支援室
Zoom による Web 会議
男女共同参画推進のための
推進員研修会

10 月は「男女共同参画推進月間」です。各職場の男女共同参画推進員を中心に、職場の環境改善を促し、意識改革を図るための研修会を開催します。本研修会はほぼ全てがオンラインで行われますので、是非お申し込みください。

□日 時 9 月 29 日(水) 14:00~15:00
Web によるオンラインセミナーのため事前申込制となります

□講 師
杏林大学
男女共同参画推進室 室長
医学部 衛生学 公衆衛生学教室 教授
和田 香苗 先生

□テーマ 『コロナ禍の先を見据えた
ワーク・ライフ・バランスのすすめ』

対象 各所属の男女共同参画推進員・全教職員
男女共同参画推進室に 9 月 22 日(水)までに E-mail(gendokpp@fmu.ac.jp)にてお申し込みください。Web(Zoom)による参加の場合は事前のお申し込みが必要となります。接種方法は後日お知らせいたします。メールでの事前お申し込みをよろしくお願いいたします。

FMU スキルアップセミナーを Web にて開催

今月 9 日(木)に今年度初の「FMU スキルアップセミナー」が開催されました。本セミナーも新型コロナウイルス感染対策の面から、Web によるオンラインセミナーとなり、89 名の教職員、大学院生、学部学生が参加されました。講師には昨年に続き、世界最大級の抄録・引用文献データベースである Scopus を提供されているエルゼビア社の日本法人であるエルゼビア・ジャパン株式会社のコンサルタント井上淳也氏をお迎えしました。

講演では、Scopus を使った先行研究調査、Scopus からの文献管理、著者プロフィールの確認、ハゲタカ出版の回避について、Scopus の実演を交えて日常の研究において活用できるノウハウを多数伝授していただきました。

Information

FMU(保健科学部)カフェ

- 日 時 令和 3 年 10 月 29 日(金)
13:00~14:00
- 場 所 駅前キャンパス 多目的ホール
- 司 会 保健科学部 臨床検査学科 教授
北爪しのぶ先生
同学部 作業療法学科 講師
石川陽子先生
- テーマ 『保健科学部教員と話しをしてみよう』
保健科学部初の FMU カフェをパネルディスカッション方式で実施いたします。

本支援室では、ライフイベント（妊娠・出産・育児・介護等）を抱えた教員の研究支援を行っています。今回は、研究支援を受けられている教員の方々にお話を伺いました。



研究支援を利用し、仕事と家族との時間の両立を 循環器内科学講座

助手 和田健斗 先生

私は当講座にて臨床業務とマウス心筋やDNA等を使用した基礎研究を並行して行っております。我が家は夫婦共働きで、子供が一人います。本来、日中は臨床業務を行い落ち着いたら研究をして帰宅して家族と夕飯…なんて考えていましたが、多忙な臨床業務でヘトヘトになり、夜10時から「さて、始めるか…」と研究に移る日も多く、臨床、研究、家庭での時間の両立の難しさを実感しておりました。

そんな時に研究支援制度を申請し、支援員 K さんに実験補助をしていただけることになりました。いつも丁寧に、速やかに作業をしていただき大変感謝しております。

今年の7月には補助していただいていた研究内容が無事論文に受理されましたが、Kさんの助けがあったからこそこの成果でした。

女性の方だけではなく、男性も家庭と仕事の両立のため本支援制度の利用が広まることを願っています。

仕事と生活のバランスが改善されました

会津医療センター 血液内科学講座

助教 助川真純 先生

健康状態が恵まれていたり、上司等の理解もあり、出産2ヶ月半後に勤務を再開しました。準備したつもりでしたが、限られた時間内に仕事をこなせないこととの折り合いにイライラすることもありました。

子供を育てながら、医師の仕事を継続することの困難さを実感し、多様な背景や生活スタイルで働く人達を認識するようになりました。まわりを見たり、助けを求める大切さを感じ、今出来ることを持続させられるようにと考えが変わってきています。

支援員の方の協力、支援があり、自宅へ持ち帰る作業が減り、生活とのバランスが取りやすくなりました。研究支援制度は、立ち止まって診療を振り返り、研究に繋げるきっかけや勤務を継続するモチベーションとなっており、大変感謝申し上げます。

あなたは、大丈夫ですか？ ハラスメント危険度チェック

- 終業間際に過大な仕事を毎回押しつける。
- 他の教職員との接触や協力依頼を禁じている。
- 皆の前で、些細なミスを大声で叱責した。
- 部下、後輩から挨拶をされても無視、会話さえしていない。
- 自分が誤った指示をしたのに、始末書を書かせる。
- スマホを勝手にのぞく。
- 「役立たず」「給料泥棒」と言う。
- 恋人や家族のことをしつこく聞く。

1つでも当てはまった方は、以下のHPで何が問題なのか確認し、日頃の言動を振り返るようにしてください。

厚生労働省「あかるい職場応援団」 <https://www.no-harassment.mhlw.go.jp/manager/check/>

また、ハラスメント防止研修を下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

ハラスメント防止研修

～ハラスメント裁判の傾向と対策～

日時：10月14日(木) 16:00～17:00

講師：弁護士 水沼 直樹 氏

開催方法：Zoomによるオンライン開催(事前申込制)

会場：8号館 S101会議室

※詳細はデスクネット掲示版のチラシをご覧ください。

担当：ハラスメント対策委員会事務局

(総務課大学人事係) 霜村

★ハラスメント相談メールボックス

→ s-soudan@fmu.ac.jp★

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 (内線 : 2807) / HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ / コーディネーター 橋本 にしき / 渡邊 賢一